

Oracle Discoverer Administration Edition and Desktop Edition

リリース・ノート

リリース 4.1.43

2003 年 1 月

部品番号: J06978-02

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Discoverer は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

Copyright © 2003, Oracle Corporation
All Right Reserved

目次

1. はじめに	3
2. 動作要件	3
3. Discoverer 4.1.43 パッチについて	4
3.1. Discoverer 4.1.43 パッチを適用するための要件	4
3.2. パッチのインストール方法（Administration Edition および Desktop Edition 共通）	4
4. Discoverer Administration Edition	4
4.1. End User Layer（EUL）のアップグレードについて	4
4.2. サマリー管理の自動化	4
4.3. クエリー・リライトに必要な init.ora データベース・パラメータについて	5
4.4. ワークブック・ダンプ・ユーティリティ	5
4.5. EUL の状況を示すワークブック	5
4.6. 追加情報	6
4.6.1. データベースに保存されているチュートリアル用ワークブック	6
4.6.2. 問合せ統計	6
4.6.3. EUL_DATE_TRUNC および ISO 日付型を使用した際の日付階層の動作変更	6
4.7. 既知の障害および注意事項	6
5. Discoverer Desktop Edition	7
5.1. 既知の障害および注意事項	7

1. はじめに

このリリースノートは、現時点で公表できる最新の情報にもとづいています。このリリース・ノート作成後に明らかになった情報については、通常のサポート情報として入手できます。

このリリース・ノートでは、Oracle Discoverer Administration Edition リリース 4.1.43 および Oracle Discoverer Desktop Edition リリース 4.1.43 について、ドキュメントに記載されている機能との相違点、制限事項、および使用上の注意点について説明します。製品をお使いになる前に必ずお読みください。また、このリリース・ノートの記述とドキュメントに相違がある場合には、リリース・ノートの記述が優先されます。

2. 動作要件

Discoverer を動作させるためには、下記のハードウェアおよびソフトウェア資源が必要です。最新の動作要件に関しては、日本オラクルのホームページに掲載されているシステム要件を参照してください。

- 日本語 Windows 95、Windows 98、Windows NT 4.0、または Windows 2000 の稼動する 80486/66MHz 以上（推奨 Pentium 以上）の CPU を搭載した PC/AT 互換機。
- メモリーは、Windows 95 および Windows 98 で動作させる場合は 32MB 以上、Windows NT で動作させる場合は 64MB 以上、Windows 2000 で動作させる場合は 128MB 以上。
- 必要とされるディスク容量は、下記の通りです。

他の Oracle 製品がインストールされていない場合

	Administration Edition (Desktop Edition を含む)	Desktop Edition
完全インストール	約 260MB	約 220MB
最小インストール	約 170MB	約 150MB

既に他の Oracle 製品がインストールされている場合

	Administration Edition (Desktop Edition を含む)	Desktop Edition
完全インストール	約 150MB	約 110MB
最小インストール	約 60MB	約 40MB

（注意：前述のディスク領域の要件は、一般的なシステム構成に基づいたものです。実際の数値は、ハードディスク・ドライブのサイズおよび使用するファイル・システムの形式によって異なる場合があります。）

- Net*8 を使用して Oracle データベースに接続できる環境。
- 以下のリリースの Oracle データベースにおいて、動作が確認されています。
Oracle 8.1.6、8.1.7、9.0.1
- ODBC 接続機能は、日本ではサポートされません。
- 互換性を持った Oracle9i Application Server のリリースは 1.0.2.2.2 です。Discoverer Administration Edition および Discoverer Desktop Edition のバージョンと、Oracle9i Application Server に含まれる Discoverer Plus および Discoverer Viewer のバージョンは、共に 4.1.43 である必要があります。

3. Discoverer 4.1.43 パッチについて

日本語環境で Discoverer Administration Edition および Discoverer Desktop Edition を使用するには、Discoverer 4.1.43 パッチを適用する必要があります。これは次の CD-ROM に含まれています。

Oracle Discoverer Administration and Desktop Edition R4.1.43 for Windows Patch CD-ROM

3.1. Discoverer 4.1.43 パッチを適用するための要件

パッチをインストールする前に、Discoverer Administration Edition または Discoverer Desktop Edition リリース 4.1.37 のインストールが完了している必要があります。

3.2. パッチのインストール方法 (Administration Edition および Desktop Edition 共通)

1. インストールする前に、起動している他のアプリケーションをすべて終了させます。
2. CD-ROM を挿入します。Oracle インストーラが自動的に起動されます。
3. Discoverer 4.1.37 がインストールされている Oracle ホームを選択します。
4. ソフトウェアの選択で、Oracle Discoverer 4.1.43 (必要に応じて Administration Edition または Desktop Edition のいずれか、あるいは両方) を選択し、パッチのインストールを実行します。

4. Discoverer Administration Edition

4.1. End User Layer (EUL) のアップグレードについて

このリリースの Discoverer Administration Edition 4.1.43 を使用することで、以前のバージョンで作成された EUL をアップグレードできます。EUL をアップグレードするには、Discoverer Administration Edition 4.1.43 を起動して、EUL の所有者で接続します。EUL のアップグレードが必要だと認識されると、自動的に確認メッセージが表示されるので、画面上の指示に従って EUL をアップグレードします。その際、以前の EUL のバックアップを取得しておくことをお勧めします。

EUL がアップグレードされた後、エンド・ユーザーが Discoverer Desktop Edition、Discoverer Plus、または Discoverer Viewer のリリース 4.1.43 を使用して EUL に接続する場合、特別なアップグレード作業は必要ありません。

4.2. サマリー管理の自動化

EUL 所有者に必要な権限が変更されています。サマリー管理を自動化するために必要な権限が追加されました。Administration Edition に DBA 権限を持つユーザーとしてログインし、EUL 所有者を Administration Edition から作成した場合、次の権限が付与されます。

```
analyze any
create any materialized view
drop any materialized view
alter any materialized view
global query rewrite
```

Discoverer3.1 からのアップグレードなどで、これらの権限を手動で付与する場合は、
<ORACLE_HOME>\DISCVR4\SQL\EULASM.SQL にスクリプトが用意されています。

4.3. クエリー・リライトに必要な init.ora データベース・パラメータについて

クエリー・リライトを有効にするには、次のデータベース・パラメータが必要です。

COMPATIBLE = 8.1.0 (またはそれ以上)

OPTIMIZER_MODE = ALL_ROWS (または FIRST_ROWS、CHOOSE のいずれか)

QUERY_REWRITE_ENABLED = TRUE

QUERY_REWRITE_INTEGRITY = STALE_TOLERATED

上記パラメータについての詳細は、「Oracle8i データウェア・ハウス」の第 19 章「クエリー・リライト - クエリー・リライトの使用可能化」を参照してください。

4.4. ワークブック・ダンプ・ユーティリティ

Discoverer に同梱されているワークブック・ダンプ・ユーティリティを使用すると、ワークブックを Desktop Edition で開くことなく、含まれている EUL 要素を確認できます (特に、結合が見つからずにワークブックを開けない時などに便利です)。

Discoverer がインストールされたディレクトリ (<ORACLE_HOME>\discvr4) にプログラムをコピーして、コマンドプロンプトから実行します。データベース上のワークブックを分析するには、ワークブックの所有者ユーザーを指定してプログラムを実行します。

プログラムは次のように実行します。

```
d4wkddmp <Workbook_Name> <Output_File> <DB|FS> <Connect_String> <Eul_Schema> -f
```

オプション	説明
<Workbook_Name>	調査するワークブックの名前
<Output_File>	ダンプ・ユーティリティからの出力結果を書き込むファイル
<DB FS>	DB=ワークブックをデータベースから開く FS=ワークブックをファイル・システムから開く
<Connect_String>	ユーザー名、パスワード、データベースの別名 例: user/passwd@database
<Eul_Schema>	EUL 表を所有するデータベース・ユーザー
-f	このスイッチはオブジェクトが EUL 内で見つかるか検査し、その結果を出力する

注意：接続文字列やワークブック名に空白が入っている場合は、二重引用符で囲んでください。

各パラメータは正しい順序で記述する必要があります。また、最後の "-f" パラメータ以外は必須です。

eul_schema パラメータでは、大文字と小文字が区別されます。例えば、EUL 所有者が SDC の場合、"SDC" と指定する必要があります。小文字で "sdc" と記述すると、次のエラーが発生します。

"Connect Error - EUL schema is not accessible. Default or specified schema containing EUL tables is inaccessible"

4.5. EUL の状況を示すワークブック

Discoverer 4.1 には、ビジネス・エリアを管理および文書化する際に役立つワークブックが付属しています。ワークブックは標準および Applications モードの EUL をサポートしています。ワークブックの使用方法については、「Oracle Discoverer Administration Edition 管理ガイド」の Appendix B を参照してください。

4.6. 追加情報

4.6.1. データベースに保存されているチュートリアル用ワークブック

ビデオ販売店チュートリアル用の新しいワークブックが、2 つ用意されています。vidstr4.dis (標準的なチュートリアル用ワークブック) と vidaf4.dis です。これらのワークブックは vidstr.eex にも含まれており、チュートリアルをインストールすると、これらのワークブックをデータベースから開くことができるようになります。これにより、Oracle9iAS Discoverer Plus からチュートリアルを実行できます。

4.6.2. 問合せ統計

Discoverer 4.1 では、Discoverer 3.1 の問合せ統計を移行および使用できません。正確な問合せ時間予測を行なうために、新規に統計を構築する必要があります。Discoverer 4.1 では、問合せ時間予測とシステム使用状況の分析を拡充するため、統計に新たな情報が追加されました。Discoverer 4.1 の End User Layer がインストールされると、問合せ統計表 (EUL4_QPP_STATISTICS) が空になります。そして、問合せが実行されるたびに、行が 1 つずつ挿入されていきます。統計はクライアント上のキャッシュに保存されており、ユーザーが Desktop Edition を閉じる際に、データベースに書き戻されます。

4.6.3. EUL_DATE_TRUNC および ISO 日付型を使用した際の日付階層の動作変更

ISO の週書式 'IW' が Discoverer の日付階層で使用されていた場合、その日付階層で生成されたアイテムは DATE 型ではなく VARCHAR 型です。これは EUL_DATE_TRUNC 関数で無意味な日付が生成されることを防ぐ意味があります。Discoverer の日付階層で、'IW' 書式は ISO の年書式 'YYYY'、'IYY'、または 'IY') とのみ組み合わせることが可能です。例えば、"W9-2000" などの ISO 週アイテムを表示したい場合は、"W" IW-IYYY という書式を指定します。

4.7. 既知の障害および注意事項

- Discoverer Administration Edition および Discoverer Desktop Edition を Windows 95 上で実行した場合に、WS2_32.DLL ファイルが見つからないというエラーが表示される場合。

Windows95 のユーザーは、Winsock 2.0 を Microsoft の Web サイトからダウンロードしてインストールする必要があります。この問題は Windows 95 以外のオペレーティング・システムでは発生しません。

Winsock 2.0 は英語版のみの提供となっており、日本語環境で使用する場合は、次のような既知の問題が発生します。

- TCP/IP 設定ダイアログで、IP アドレスを含む一部の設定項目を入力できない。
- Windows95 に付属する TCP/IP ユーティリティが英語版に置き換えられ、日本語に対応した文字コード変換を使用できない。

これらの問題は、WinSock 2.0 をインストールした後に、日本語版ダイアルアップ・ネットワーク 1.3 アップグレードをインストールすることで回避できます。

- データベースリンク経由での外部サマリーの登録について

Oracle8i では、リモート・データベース上の外部サマリーを登録できません。この問題を回避するには、EUL を格納しているデータベース上で外部サマリーを参照するビューを作成し、このビューを Discoverer で外部サマリーとして登録します。

- マテリアライズド・ビューの元表がリモート・データベース上にある場合、クエリー・リライトが行なわれない問題 (1504880)

Oracle8i では、マテリアライズド・ビューの元表がリモート・データベース上に存在する場合、クエリー・リライトおよびリフレッシュを実行できません。問題を回避する方法は、サマリーが外部サマリーであるか管理サマリーであるかで異なります。

外部サマリーの場合、サマリー(マテリアライズド・ビュー)の全列を選択するビューを作成し、Discoverer の外部サマリー表として登録します。これにより、Discoverer がリライトを実行できます。

管理サマリーの場合は、作成されたマテリアライズド・ビューの全列を選択するビューを作成し、Discoverer の外部サマリー表として登録します。さらに管理サマリー・フォルダの「問合せで使用可能」プロパティを「いいえ」に設定します。これにより、Discoverer は管理サマリーではなく、外部サマリーを使用してリライトを実行できます。

この問題に関するサーバー側のクエリー・リライトおよび高速リフレッシュについては、将来のバージョンで対応予定です。

- コマンドライン・インタフェースの「/load」オプションについて

マニュアルやヘルプに記載されている、コマンドライン・インタフェースの「/load」オプションの修飾子「/replace_blanks」の記述が間違っています。正しい修飾子は「/insert_blanks」です。

- コマンドライン・インターフェースのインポート時のログが文字化けする問題

コマンドライン・インターフェースで「/import」オプションを使用した場合に、修飾子「/log」を使用して作成されたログ・ファイルが文字化けするという問題が発生します。インポート動作に影響はありません。

- Discoverer Administration Edition、Discoverer Desktop Edition 起動時のエラーについて

Discoverer Administration Edition、Discoverer Desktop Edition 起動時に、「MSVCP50.dll が PATH に見つからない」というエラーが発生する場合があります。

この現象は、Windows NT Server Edition にて確認されている現象で、Workgroup では dll が既に存在しますので発生しません。これについては他のマシンから MSVCP50.dll を Winnt\system32 にコピーすることで対処できます。この問題は将来のバージョンで修正される予定です。

5. Discoverer Desktop Edition

5.1. 既知の障害および注意事項

- 設定時間で問い合わせを中断する場合の注意事項 (1942933)

「オプション」-「問合せ管理」で「設定時間で問い合わせ中断」チェック・ボックスを選択していないにもかかわらず、設定時間に指定されている時間で問合せが中断される問題があります。問合せを中断したくない場合は、十分に大きい値を設定時間に指定することで回避できます。